

B-3 南琉球宮古語池間西原方言における否定文の特徴と情報構造との関係性¹²

林由華（大阪大学）

1. はじめに

日本語の動詞述語否定文には、主に動詞の否定形によるものと、ノデハナイによるものがあり、前者については命題否定の場合以外では否定のスコープ（否定が作用しうる範囲）が狭くとられる傾向が強く、何が自然に否定のフォーカス（特に否定される要素）となれるのかについては、文脈に大きく左右されることが知られている。池間西原方言の否定文にも、動詞の否定形を用いる方法と、名詞化節をコピュラ否定形により否定する方法があるが、それぞれが取る否定のスコープは日本語と異なっている。池間西原方言では通常、単文全体及び目的節など一部の独立性の低い従属節が否定のスコープに入る場合は動詞否定形が用いられ、理由節など独立性の高い従属節が否定のスコープに入る場合のみ、名詞化節をコピュラ否定形で否定する方法が用いられる³。

(1) 「仕事しに東京に行ったんじゃない」

a. sigutu asi-ga=a tookyoo=nkai=ya ika-ddan（仕事 する-PURP=NFOC 東京=ALL=NFOC 行く-NEG.PST）

?? b. sigutu asi-ga tookyoo=nkai ifu-tai=ya ara-n（仕事 する-PURP 東京=ALL 行く-NEG.PST=NFOC COP-NEG.NPST）

(2) 「いたずらしたから怒ったわけじゃない」

a. wacyaku hii yaa=ba=du mmici-tai=ya ara-n（いたずら して RES=CSL=FOC 怒る-PST=NFOC COP-NEG.NPST）

* b wacyaku hii yaa=ba=du mmika-ddan.（いたずら して RES=CSL=FOC 怒る-NEG.PST）

本発表ではこの2つの否定文のうち、動詞否定形を用いた否定文の特徴について記述することを目的とする。

池間西原方言の動詞否定形を用いた否定文は、上述のように日本語の動詞否定形と比べて広いスコープをとるとともに、基本的に、項（動詞より前の文中要素）がすべて非焦点形（主題形）⁴であるという特徴を持

¹ 本研究は JSPS 特別研究員奨励費 25・40096 の助成を受けたものである。また、調査の一部で、衣畑智秀氏にご協力いただいた。記して感謝の意を表する。

² 池間方言は宮古島市池間島、西原、佐良浜（後者2地域は池間島からの分村地）で話されることばであり、他方言と比べれば同質的であり、話者間にも共同意識はあるが、動詞活用形などにおいても違いがみられる。

³ (1b) のような例で名詞化節＋コピュラ否定形が許容できるかについては話者により判断が揺れる場合もあるが、ある話者によれば (1b) で名詞化節＋コピュラ否定形を用いるのは「日本語の直訳」のようであり、比較的若い話者が使うものであるという認識があるようである。

⁴ 3節でも述べるように、日本語の主題形に対応する機能を持っている。代表形（基底形）は =a もしくは =ja とされるが、付与される語の語末音によって次のように形態変化する。

語末の音	=a	例
-C	-C=Ca	海 in in=na
-Ci	-C=Ca	牛 usi us=sa
-Ca	-Ca=a	傘 sana sana=a
-Ci	-Cja=a	酒 saki sakja=a
-Cu	-Cu=u	蛸 taku taku=u
-VV	-VV=ja	木 kii kii=ja

また、この非焦点形は、主格=ga とは共起せず、対格 =u については =a とは別の =gyaa という非焦点標識とは共起する。共起関係を次の表に示す。

っている。非焦点形とならないのは、① 否定のスコープより高いスコープをとる量化表現 ② 談話上の焦点⁵ を表示する要素のみである。本発表 2 節において、これについて詳述する。また、3 節では、このような否定文の特徴について、非焦点標識の性質と焦点表示システムなどを説明したうえで、これが情報構造上述語焦点文と同様の構文となっていることを示す。続く 4 節でまとめを展望を述べる。また、例文について、紙幅の都合上、グロス例文の右 () 内に表記した。

2. 動詞否定形による否定文の特徴

2.1 否定のスコープと基本的な項マーキング

日本語記述文法研究会 (2007: 237) によれば、日本語の動詞否定形による否定文では、「事態の成立」が否定されるのであり、事態の成立以外の部分を否定のフォーカス（特に否定される箇所）にする場合には動詞否定形は用いにくい場合が多く、基本的にノデハナイなどが用いられる。例えば、「東京に行かなかった」では「東京に行った」という事態の成立が否定されているが、事態の成立以外の部分である「仕事で」などを否定のフォーカスとしたい場合は、「仕事で東京に行ったのではない」とするのが自然である。池間西原方言の動詞否定形による否定文の場合は、一部の独立性の低い従属節（目的節など）を含めた文全体がスコープに入り、ここでいう「事態の成立」以外の否定にも自然に用いられる⁶。ただし、述語以外の文中要素はすべて非焦点形（主題形）とならなければならない⁷。日本語の主題形（ハが付与された形）も否定文中で頻出し⁸、否定のスコープや否定のフォーカス（スコープ内でもどの箇所が否定の対象になるのか）をより明示的にするとされる（日本語記述文法研究会 2007）が、池間西原方言の場合は、否定のスコープに入る要素は基本的にすべて非焦点形であり、否定のフォーカスについては少なくとも助詞付与などの形態論上では明示しない⁹。以下では、日本語と異なり、補語、副詞、主語、述語 が否定のフォーカスになっている場合にも動詞否定形が用いられ、かつ項がすべて非焦点形となることを示す例を列挙する。

(3) 補語否定「私は仕事で東京に行ったのではない」（(1) と同義）

ba=a sigutu=hii=ya tookyoo=nkai=ya ika-ddan. (1sg=NFOC 仕事=INST=NFOC 東京=ALL=NFOC 行く-NEG.PST)

(4) 副詞否定「(頑張って書いたが) きちんと書けなかった」

masagantii=ya kak-ai-ddan. (きちんと=NFOC 書く-POT-NEG.PST)

	主語	目的語	補足語・修飾語 (格あり)	補足語・修飾語 (格なし)
デフォルト形	acya=nu	acya=u	acya=nkai	acya
非焦点形	acya=a	acya=a/ acya=u=gyaa	acya=nkai=ya	acya=a

⁵ 否定のフォーカスは否定の焦点とも呼ばれるが、ここでは情報構造上の焦点との区別をわかりやすくするために、一貫して「否定のフォーカス」と呼ぶ。

⁶ 1 節で見たように、理由節など独立性の高い従属節がなければ、むしろ名詞化節をコピュラで否定する方法は用いることができない。

⁷ 動詞以外もそう。非焦点形の音韻形態論

⁸ これは主題形が対比の意味をもつためとされることもあるが（日本語記述文法学会 2007）、否定文に現れるハは主題でも対比でもないといわれる (Tomioka 2016)。

⁹ 語順やイントネーションによってこれを明示する方法がある可能性はあるが、現時点では明らかではない。

(5) 主語否定「(割れた花瓶が自分のせいではないことを主張する文脈で) 私がやったんじゃないよ」
ba=a hu-n =doo (1sg=NFOC する-NEG.NPST =SFP)

(6) 述語の一部否定「買ったんじゃないよ。(もらったんだ。)」
ka-a-n =doo. (買う-THM-NEG =SFP)

(3)-(6) のいずれも、名詞化節とコピュラ否定形による表現は不自然であり、また項のどれかが非焦点形でなくなれば、解釈がかわってしまう(次節参照)¹⁰。

また、冒頭 (1) で示したように、-ga 目的節もスコープに入ることができる。どこからが動詞否定形をとり、どこからが名詞化節とコピュラ否定形を用いるのが自然かについては、まだ十分に調査できていない。

2.2 項が非焦点形とならない場合

2.1 節で見たように、動詞否定形否定文では基本的にすべての項が非焦点形となるが、① 否定のスコープより高いスコープをとる量化表現 ② 談話上の焦点 の場合は、この限りではない。

① 否定のスコープより高いスコープをとる量化表現

日本語では量化表現と否定のどちらが高いスコープをとるのかについて、ハが使われない場合曖昧になるが、池間西原では非焦点形をとるかそうでないかはっきり違いが表れる。

(7) 「10 人来なかった」

a. zyuunin¹¹ kuu-ddan. (十人 来る-NEG.PST) : 来なかった人は 10 人

b. zyjuunin=na kuu-ddan. (十人=NFOC 来る-NEG.PST) : 来た人が 10 人に満たない

(8) 「全員来なかった」

a. nna-nai kuu-ddan (全員 来る-NEG.PST) : 来なかったのは全員

b. nna-nai=ya kuu-ddan. (全員-NFOC 来る-NEG.PST) : 来た人は全員ではない

② 談話上の焦点

①以外のものが非焦点形以外で現れる場合は、その要素が焦点となる解釈になる。なお、この場合、いわゆる焦点助詞である du は付いてもつかなくても解釈は変わらない。(9) のように、特に前提もなく「雨が降らなかった」ことを知らせる場合は、「雨」を含む句は非焦点形でないと不自然である。

¹⁰ (4) では「きれいに」を表す masagan=tii が非焦点形でなくても元の解釈のまま許容できるという話者もいた。

¹¹ zyuunin は日本語からの借用であり、方言形では tuu=nu hitu となるが、形態特徴をわかりやすくするためにあえて借用形を用いた。

(9) (話題を振る文脈で)「昨日は雨が降らなかったね」

a. hnu=u amya=a ffa-ddan =i (昨日=NFOC 雨=NFOC 降る-PST.NEG =SFP)

b. # hnu=u ami=nu ffa-ddan =i (昨日=NFOC 雨=NOM 降る-PST.NEG =SFP)

この (9b) が自然となるのは、「何が降らなかったって?」と聞き返されて、「雨が降らなかったんだよ。」と答えるような文脈である。つまり、ami=nu が応答焦点となっているような場合である。このほか、「浮かない顔をして、どうしたの?」「(期待していたのに) 雨が降らなかったんだよ。」などのように、ami=nu が含まれる節が文焦点かつ応答焦点となっているような場合にも用いることができる¹²。いずれの場合も、ami=nu=du ffa-ddan のように、ami=nu にさらに焦点助詞=du がついても、同じ解釈となる。

また、この文焦点的用法として、非焦点形でない要素をもつ否定文が強調や驚嘆の意味をもつ文として許容される場合もある。例えば以下の「発見」の文脈では、saba「草履」は非焦点形の場合とそうでない場合と、両方とも自然である。

(10) (玄関で自分の草履がないのに気づいて)「私の草履がない」

a. ba=ga saba=a nya-a-n. (1sg=GEN 草履=NFOC ない-THM-NEG)

b. ba=ga saba=nu nya-a-n. (1sg=GEN 草履=NOM ない-THM-NEG)

3. 情報構造表示システムと否定文

ここでは、2 節で示した、動詞否定形否定文のもつ「項がすべて非焦点形であること」の持つ意味合いについて、池間西原方言における非焦点標識の性質や焦点表示システムを概説しながら述べる。

これまで見てきた池間西原方言の非焦点形をつくる非焦点標識は、日本語の主題標識ハに対応した機能を持っているが、2 節で示した否定文との関係のように、日本語とは異なる構文も形成する。林 (など) ではその出現分布を考慮し、主題も含めた「焦点に入りえない」要素を表示するものとして、これを主題標識でなく、非焦点標識と呼んでいる。以下では、この非焦点標識がどのように現れるのかについて、焦点表示システムとの関係をもとに概説し、動詞否定形否定文の項標識特徴が情報構造上どのような意味をもつのか考察する。

3.1 焦点と非焦点標識の関係

琉球の諸方言全般に焦点標識があることが知られているが、池間西原はそのうち最も一般的な du ひとつを焦点標識として持っている。焦点に必ずしも焦点標識が必要というわけではなく、焦点標識なしでの焦点がありうるほか、述語の種類によってはむしろ項に焦点があっても焦点標識が出現できない場合もある (林 2016)。また、この焦点標識が述語内に現れる場合のほか、動詞活用形の中にも必ず述語焦点となることが決まっている形があり (合わせて述語焦点形式とする)、形態レベルで焦点を明示する機能が発達しているといえる。これらの焦点を明示する機能をもった形式を含む要素を焦点極性要素と呼ぶこととし、ここでは焦点極性要素を含む場合の焦点表示システムについて述べる。ここで焦点極

¹² このことは、3 節で見る焦点極性要素が焦点範囲の左端をマークすることと関係していると考えられるが、ここでは詳細は割愛する。

性要素と呼ぶものは、(11) のようなものである。

(11) 焦点極性要素である項：=du が付与された句 ex) ami=nu=du (雨=NOM=FOC)

焦点極性要素である述語：=du を含む補助動詞構文 ex) ikii=du ui (行つて=FOC いる)

述語焦点となる活用形¹³ ex) ifu-dusi (行く-FOC)

■焦点極性要素と焦点範囲

文が焦点極性要素を含む場合、焦点極性要素だけでなく、焦点極性要素を含んだそれ以降の要素が可能な焦点範囲となる。つまり、焦点極性要素は焦点範囲の左端をマークしているといえる。また、焦点極性要素は基本的に主節内に一つである。

■焦点極性要素がある場合のその他の要素のマーキング

焦点極性要素がある場合、それより左（前）の要素は必ず意味的に非焦点であり、かつ非焦点形（非焦点標識が付与されている）でなければならない。焦点極性要素より右（後ろ）の要素は、意味的に焦点でも非焦点でもありえ、また意味的に非焦点であっても、非焦点標識の付与は任意である。つまり、焦点極性要素のように焦点を明示する要素がある場合、それが出現する以前の要素については、非焦点であることを明示しなければいけない。このことを以下のように図式的に表し、簡単に文例を示す。

焦点解釈	非焦点	焦点	任意
(文)	X
形式	<非焦点形>	<焦点極性要素>	任意

図 1： 焦点極性要素と焦点範囲、その前後要素の形式について

(12) 「ミガがユヌスを叩いた」(「ユヌスを」もしくは「ユヌスを叩いた」が焦点)

a. miga=a yunus=su=du ttaci-tai (ミガ=NFOC ユヌス=ACC=FOC 叩く-PST)

*b. miga=ga yunus=su=du ttaci-tai (ミガ=NOM ユヌス=ACC=FOC 叩く-PST)

(12b) のように、焦点極性要素より左側は非焦点形のみが許容される。

3.2 述語焦点形式と否定形

述語焦点形式は、否定文と同様、述語より前の要素がすべて非焦点形となる。これは、述語焦点形式が焦点極性要素であることから、3.1 節で示した焦点極性要素と非焦点形の出現位置についての規則から導出できる。(13) は述語焦点形式の一つである を用いた文例である。

(13) kuma=n=na taa=ya ai-dusi (ここ=DAT=NFOC 田=NFOC ある-FOC)「ここには田がある」

¹³ この-dusi 形のほか、-dusi 形の過去形である -dusitai 形や、中止形と同形となる特殊形がある。

(13) においては、kuma=n=na および taa=ya のいずれの要素が非焦点標識なしで現れても、許容されない。これは2節で見た基本的な動詞否定形否定文と同様の特徴であるといえる。ただし、動詞否定形否定文においては項が非焦点形でない場合もあるのに対し、述語焦点形式においては、非焦点形でないものは許容されないという違いがある。これらのことは、池間西原方言の情報構造が持つ形式的・意味的特徴について、以下の(14)(15)を示していると考えられる。

(14) 否定形は焦点極性要素としての構文特徴を持つ。

(15) 非焦点標識の付与されていない要素は、それだけで（焦点標識がなくても）義務的に焦点解釈を受ける環境がある。

(14) は、否定形が述語焦点と同じ情報構造についての形式的特徴を持つこと、否定形否定文の意味的な焦点が動詞のもつ機能カテゴリにあることを示唆しているといえるだろう。(15) については、述語焦点形式がその項の中に非焦点形以外のものをもてないということも説明するものである。紙幅の都合上、本発表ではこれらの可能性を指摘するに留め、詳細な議論は別の機会に譲るものとする。

4. まとめと展望

本発表では、池間西原方言の動詞否定形否定文について、次の特徴を記述した。

- 一部の従属節を含めた文全体がそのスコープとなっており、日本語の動詞否定形否定文と比較して広いスコープを持っている。
- 動詞否定形否定文においては、①量化表現が否定のスコープより高いスコープをとる場合 ②焦点となる場合 以外の文中要素はすべて非焦点形となる。これは、述語焦点形式と同じ特徴である。動詞否定形文における非焦点標識の出現については、それが非焦点形でない場合の解釈も含め、その仕組みを十分に説明できているわけではないが、否定文が情報構造上の形式的特徴として述語焦点と同じものを持っていること、またそれを適用しない場合も可能であることを示している。今後は、従属節のうち、どこまでが主節動詞否定形のスコープに入り、どこからが名詞化節をコピュラで否定する方法をとるのかについてより詳細な調査を進めるとともに、池間西原方言の否定文の情報構造特性を説明できる形でいかに情報構造のモデルを作っていくかが課題となる。日本語の否定文に出現するハの性質については、未だ十分な説明がなされていないが (Tomioaka 2016)、池間西原方言の研究がその解明につながる可能性もあるだろう。

【参考文献】

- 林由華 (2013) 「南琉球宮古語池間方言の文法文法」 京都大学文学研究科博士論文
林由華 (2016) 「南琉球宮古語池間（西原）方言における焦点助詞 du と述語動詞モダリティの相互関係」
日本言語学会第 152 回大会予稿集, 144-149. (慶応大学、2016 年 6 月 25 日)
日本語記述文法研究会 (2007) 「第 7 部 肯定」『現代日本語文法③』くろしお出版
Tomioaka, Satoshi (2016) 'Information Structure in Japanese', in Caroline Féry and Shinichiro Ishihara (eds.) "The Oxford Handbook of Information Structure", Oxford University Press: Oxford.

【略号一覧】

1sg 一人称単数; ACC 対格; ALL 向格; COP コピュラ; CSL 理由; DAT ; FOC 焦点; NEG 否定; NFOC 非焦点; NOM 主格; NPST 非過去; PST 過去; POT 可能; RES 結果相; SFP 終助詞; THM 語幹母音